

第2学年 国語科学習指導案

2組 計24人 (男子11人, 女子13人)

指導者 橋口 盛文

1 単元 「ようすを考えて読もう」(教材「お手紙」 光村2年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、「ふきのとう」や「スイミー」の学習で想像を広げて読むことや音読をしたときの言葉の響きを大切にすることを中心に学習してきた。特に「スイミー」では、登場人物の心の変化から情景描写や挿絵、会話文をもとに読み深める学習をしてきている。

そこでここでは、これまでの学習を生かして、一人読み、役割読み、動作化等の多様な活動を展開していく。そして、登場人物の気持ちを考え、場面の状況に対する言動から人物像を読み取る楽しみを視点として、これからの本を読む活動につなげていこうとする単元を設定した。

教材「お手紙」は、がまくんとかえるくんという二人の主人公が、お互いを思いやる行動や会話で、読む人を温かい心にしてくれるファンタジー作品である。本作品は、会話文や場面描写から、登場人物の思いやりや、やさしさなどが読みとりやすい教材文である。ちょっぴりわがままで、自分勝手ながまくんと、懸命に相手にやさしい言葉をかけるかえるくん、いずれも子どもの心にはびったりとその心が感じ取れる教材である。また、がまくんの家とかえるくんの家、そして二人が話しているそのときに、懸命に少しずつがまくんの家に向かっていくかたつむりくんの存在が、ひたむきで微笑ましい教材文である。

本単元で子どもたちは、会話文を中心に役割読みや動作化などを積極的にとり入れたり、場面描写や登場人物の言動からその気持ちをワークシートにまとめたりすることにより、人物像をつかむことができる。また、本学習と並行し、同作者の作品を読み聞かせやブックフェアで紹介したり、子ども相互に読み合ったりする中で、「ふたりはともだち」とシリーズに共通する人柄について話し合うことができる。さらに、がまくんやかえるくん、かたつむりくんの人柄を理解したうえで、書きたい相手に主述の関係を明確にした手紙を書くことができる。

ここでの学習は、これまでの学習を生かし、出来事の順序を考えながら、情景や場面の様子、登場人物の気持ちなどについて、想像を広げて読む2学年の最終単元「スーホの白い馬」へとつながっていくものとする。また、易しい読み物に興味をもって、声に出して読む活動へ広がっていくものとする。

(2) 単元の目標

登場人物の人物像や気持ちをつかみ、楽しく読もうとしている。

作者アーノルド・ローベルのシリーズ本や絵本を進んで読むことができる。

【国語への関心・意欲・態度】

手紙の書き方を知り、相手のことを共感的に思いながら手紙を書くことができる。

【書く能力】

場面の様子やがまくん、かえるくんの心情を表す語句や表現に注意して読むことができる。

がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読むことができる。

【読む能力】

主述の関係に注意して読んだり書いたりすることができる。

【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

子どもたちは音読活動が好きで、元気よく上手に読める子どもが多い。進々しい読みの子どもも練習を繰り返すことにより、スムーズに読むことができるようになってきている。また、会話文などへの感情移入のできる子どもも見られ、楽しい音読ができるようになってきている。

読み深める段階における交流では、教師の発問や友達の意見に対し、自分の思いや考えをはっきりと話すことのできる児童が増えてきている。また、ワークシートに、自分の考えや思いをまとめて書くことができるようになってきている。また、解決の見通しや解決法が見つけにくく、解決が十分にできない子どもは、教師の支援や友達との相互解決により、自分のペースで学習が進められるようになってきている。

イ 本単元の内容にかかわる実態

1	手紙を書いたことがありますか。書いたことのある人は、誰に書きましたか。 ア ある〔17名〕 イ ない〔7名〕 ----- ・友達〔7名〕 ・祖父母〔5名〕 ・家族〔3名〕 ・先生〔2名〕
2	手紙やはがきをもらったとき、どんな気持ちでしたか。 ・嬉しい気持ち〔12名〕 ・すごく嬉しい〔5名〕 ・ありがとう〔2名〕
3	手紙を書くとき、書かなくてはいけないことは、どんなことですか。 (気をつけること) ・丁寧に書く〔7名〕 ・名前(相手, 自分)〔6名〕 ・住んでいるところ〔3名〕 ・元気ですか〔3名〕 ・句読点〔2名〕
4	あなたにとって、友達はどんな人ですか。 ・やさしい人〔17名〕 ・元気をくれる人〔2名〕 ・大事な人〔2名〕 ・信用できる人〔2名〕 ・いい人, 助け合う人, おもしろい人, 親切な人, 笑顔な人, ・大切な人〔各1名〕
5	友達にしてもらって、嬉しかったことはどんなことですか。 ・遊んでもらったこと〔11名〕 ・勉強や分からないことを教えてもらったこと〔5名〕 ・困ったときに助けてもらったこと〔6名〕 ・プレゼントをもらったこと〔1名〕

手紙を書くことについては、およそ3分2の子どもが経験している。また、手紙やはがきをもらった経験から、うれしさや感謝の気持ちを抱いている。そして、手紙の書き方についても書いたり、もらったりしたことをもとに、知っている子どももいる。

子どもたちにとって友達の存在は、とても大きく、学校生活内外での関わりが大きくなってきている。自分がしたことやしてもらったり、言われたりした経験を友達に生かすことも少しずつできるようになってきている。

3 指導に当たって

本単元では、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように、以下のような点に留意して指導いく。

- ① **研究の視点1 (子ども一人一人が読む目的をもち、読みたいと感じる授業づくり)**
 - ・ つかむ段階で、文章を正しく読み、学習したことを生かして「身近な人にお手紙を書こう。」を行うことを学習の活動目標とし、課題意識をもって読み進めることができるようにする。
 - ・ 教材文を意欲的に読むことができるようにするために、同作者の「ふたりシリーズ」の並行読みをさせるようにする。
- ② **研究の視点2 (子ども一人一人が自分の読みの高まりを実感できる授業づくり)**
 - ・ 深める段階で、時間的な順序、事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができるようにするために、ワークシートを用いて子どもたちが文中の言葉に着目しながら、場面ごとのあらすじをつかむことができるようにする。
 - ・ 一人学びの読みを大切にするために、がまくんやかえるくんの気持ちが表れているところにサイドラインを引き、書き込みをしたり、吹き出しに書いたりするなどの活動を取り入れるようにする。そして、挿絵と文とを結びつけながら、二人の気持ちや場面の様子を想像できるようにする。
 - ・ 高める・味わう段階で、場面の様子や登場人物の様子が聞き手に伝わるように音読できるようにするために、これまでの学習で活用したワークシートや挿絵を振り返らせるようにする。
 - ・ 同じ作者の絵本などの読書活動では、これからの学習への意欲を高め、興味・関心を持続させるために、「ふたりシリーズ」の読み聞かせを行い、子どもたちの読書意欲を高めたい。
- ③ **研究の視点3 (子ども一人一人が読むことを楽しみ、学んだことを生活に広げていく学習の在り方)**
 - ・ 広げる・まとめる段階で、相手を共感的に思いながら手紙を書くことができるようにするために、書いた文を読み返し、相手の立場になり推敲させる活動を取り入れたりするようにする。そして、手紙の書き方に生かせるように、書いた文章を読み合う交流を通して「学び合い」が深まるようにしたい。

4 指導計画(全16時間)

は研究の視点に関する内容(◇は視点1, ◆は視点2,) は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	3	1 友達のよさやすばらしさ, 手紙を書いてもらったり, 書いたりした経験について話し合う。 「お手紙」を読んで面白いと思ったことについて話し合う。	単元の見直しをもたせるために, 実態調査を活用し, 本教材のキーワードとなる「友だち」「お手紙」について, これまでの経験を発表し合い, 本教材と関係づけた考えを持たせるようにする。
		2 新出漢字や難しい語句を確かめながら通読し, 場面を分ける。	友達, 手紙というキーワードから物語文に関心をもって, 意欲的に学習にとり組もうとしているか。(発表・観察) 【国語への関心・意欲・態度】
深める	7 (本時4/7)	3 初めて読んだ感想を基に話し合い, 学習課題をつかみ, 学習計画を立て見直しをもつ。 <u>身近な人にお手紙を書こう。</u>	◇ 教材に関心をもって, 意欲的に読むことができるようにするために, 同じ作者の作品を紹介し, 「ふたりシリーズ」の並行読みをさせるようにする。 ◇ 単元末でこれまでの学習を生かして, 手紙を書くという, 目的意識をもたせるようにする。
		4 登場人物の言動や情景描写から人物の気持ちや人物像を考えながら読む。 手紙をもらえないがまくん 手紙を書くかえるくん 手紙の到着を待ちきれないかえるくんとなげやりながまくん 幸せな気持ちで座って, 手紙を待つ二人	時間の経過や場面の様子をつかむことができるようにするために, 中心となる教材文や挿絵を活用するようにする。 ◆ 叙述に即した読み取りができるようにするために, 二人の会話文の色分けや挿絵と本文をつなげたワークシートの工夫を図るようにする。 主述の関係に注意して読んだり書いたりすることができたか。(ワークシート) 【言語についての知識・理解・技能】 ◆ 叙述に即した読み取りや音読表現を苦手としている子どもに対しては, 意図的にペアをつくり, 学習の見通しや解決ができるようにする。 ◆ 登場人物の心の変化や人物像に迫ることができるようにするために, 簡単な場面の道具を準備し, 登場人物になりきって役割読みができるようにする。
味高める	3	5 アーノルド=ローベルの「ふたりシリーズ」のお話を読んだり, 聞いたりした感想を発表する。	場面の様子やがまくん, かえるくんの心情を表す語句や表現に注意して読むことができたか。(発言・音読・動作化) 【読む能力】 がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように, 語や文のまとまり, 声の大きさなどに注意して読むことができたか。(音読) 【読む能力】
		6 登場人物の気持ちや二人の様子を想像しながら, 全場面を通して音読劇の練習をする。	作者アーノルド=ローベルのシリーズ本や絵本を進んで読むことができたか。(発表) 【国語への関心・意欲・態度】
ま広げめる	3	7 音読劇の発表会をする。	登場人物の心の変化や人物像に迫った音読劇ができるようにするために, これまでに活用したワークシートや学習計画表を活用できるようにする。 評価の観点表を活用できるようにすることで, 鑑賞する態度を育てるとともに, 音読したり, 発表したりする意欲を高めるようにする。
		8 これまでの学習を生かし, 身近な人へお手紙を書く。	登場人物の人物像や気持ちをつかみ, 楽しく音読することができたか。(音読・動作化) 【国語への関心・意欲・態度】 相手を共感的に考えているか, 手紙の書き方が正しいかを確かめるために, 相互に推敲させるようにする。 手紙の書き方を知り, 相手のことを共感的に思いながら手紙を書くことができたか。(手紙) 【書く能力】

5 本時(7/16)

- (1) 目標 二人の心の様子を表す語句や表現に注意しながら読み、登場人物の気持ちが表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに気をつけて音読することができる。
- (2) 展開 教師の働きかけ 予想される子どもの反応 重点評価項目 個に応じた支援
- は、研究の視点に基づく指導・支援(◇は視点2)

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ	<p>1 前時までの学習を想起し、本時の学習の見通しを立てる。</p> <p>かえるくんは、家で何をしていたのかな。がまくんにお手紙を書きに帰った。そのときどんな気持ちだったのかな。がまくんが喜んでくれるかな。今日の場面の最後で、がまくんは、「かえるくん、どうして、きみ、ずっと、まかえるくんになんと言ったかな。」どの外を見ているの。</p> <p>2 学習課題を確かめる。</p> <p>かえるくんは、どうしてずっと窓の外を見ているのだろうか。</p> <p>3 かえるくんが窓の外を見ている様子や言った言葉に気をつけながら、本時の学習範囲を音読する。</p> <p>4 かえるくんが言った言葉や動きから二人の心の変化を読み取る。</p>	<p>学習計画表やワークシート、挿絵を手がかりに前時を振り返り、本時の場面とを結びつけるようにする。</p> <p>同時に二人の気持ちの様子を読み取ることは難しいので、かえるくんの気持ちの様子を中心に読み取らせるようにする。</p> <p>学習の進め方を提示、説明し、学習の見通しがもてるようにする。</p>
深める	<p>(1) 一人で調べる。</p> <p>ワークシートに、かえるくんが待っているということが分かる文に線を引きましょう。</p> <p>(2) みんなで、線を引いた場所を確かめ、話し合う。</p> <p>かえるくんは、がまくんにどんなことを言いましたか。「ひょっとして、だれかが、きみに...。」かえるくんは、どんなことをしましたか。「きょうは、だれかが、きみにお手...。」かえるくんの言ったことやしたことについて線を引くことができましたが、何が気づいたことはないですか。「きみ、おきてさ、お手紙が来るの...。」窓から郵便受けを見ている。窓から外をのぞく。同じ文が3回繰り返して書いてある。</p> <p>(3) かえるくんの気持ちをワークシートにまとめる。</p> <p>(4) みんなで話し合う。</p> <p>窓から郵便受けを見ているのと、外をのぞいている様子は、どのように違うのかな。お手紙、早く届かないかな。かえるくんの気持ちはどのように変わってきたかな。また、どんな読み方の工夫をすればよいでしょうか。かたつむりくんは、どうかしたのかな。がまくんが早く元気になってくれないかな。かたつむりくん、早く来ないかな。だんだん不安になってきた。いらいらしてきた。とても心配になってきた。</p>	<p>課題解決に向けて登場人物の動きを表す言葉や会話文に気をつけながら音読させるようにする。</p> <p>◇ かえるくんの動きと会話が分かるように、サイドラインの種類を変えさせるようにする。また、その時の気持ちについて挿絵にも着目させるようにする。</p> <p>◇ 心の変化や人物像を考えることができるようにするために場の設定をし、動作化をさせるようにする。</p> <p>場面の様子やがまくん、かえるくんの心情を表す語句や表現に注意して読むことができたか。(発言・音読・動作化) 【読む能力】</p> <p>自分なりの読み取りや音読の工夫ができる子どもかえるくんだけでなく、がまくんの心の様子も読み取らせるようにする。</p> <p>解決の方法や見通しが立てにくい子ども登場人物それぞれの会話文や動きを色分けしたワークシートを活用させるようにする。</p>
味高わあうる(10)まとめ(5)	<p>5 3人グループで、役割読みをする。</p> <p>二人の動きや会話文を工夫しながら、音読しましょう。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。</p> <p>かえるくんは、どうしてずっとまどの外を見ていたのだろうか。早く自分のお手紙を読ませたかったから。がまくんが喜ぶ顔を見なかったから。</p> <p>7 みんなで、がまくんとかえるくんに分かれて音読する。</p> <p>8 次の学習を確認する。</p> <p>次はどんな場面でしょうか。(二人が仲良く会話しながら手紙を待つ場面。)</p>	<p>◇ 意欲的に音読活動が展開できるようにするために、話の場面の道具を準備できるようにする。また、音読を苦手としている児童に対し、意図的な小グループで活動できるようにする。</p> <p>友達の音読発表のよさに気付かせ、意見交換をさせるようにする。</p> <p>がまくんとかえるくんの気持ちや様子が、聞き手に伝わるように、本時の学習を確かめながら音読させるようにする。</p>